



親も子どもに育てられる



「親はなくとも子は育つ」という言葉があります。言葉の意味は、「世の中のことはさほど心配したものではない」というたとえ（大辞林）ということですが、言葉そのものは、親の存在感が薄いもので、何とも親にキビシイ言葉に感じます。幼児期には親がいないと子どもはどうすることもできませんが、少年期に入るとそうではなくなっていくます。その時期にいつまでも親が出しゃばりすぎると、子どもの成長のじゃまをしてしまいます。2年前に「過保護のカホコ」というドラマが人気でしたが、そのドラマの親のように、いつまでも子どもへの対応を変えない親は子どもの成長や自立にとって危険な親になります。親も成長する必要があるのです。どの子も親や家庭から大きな影響をうけて育つことは確かですから。

逆に「育てたように育つ」という言葉もあります。我が家の息子どもを見ていても、そうだよなあ、そういうふうに育てたんだよなあと反省する部分が多くあります。イヤなところが自分そっくりなのです。

…息子どもが騒いでいるのを見て妻が「私の血じゃない」と言ったことがありました。
育て方とともにDNAが色濃く出ることもあるようです…

兄弟や姉妹がいる家庭の親から、「同じように育てたつもりなんです…」という言葉聞くことがあります。それはあり得ないことだと思っています。物理的に分かるのが、写真やビデオなどの量が違うことではないかと思います。1人目は親も慣れていないので、おろおろしたり、慎重になったりと神経質に育てるのが普通です。2人目以降はその経験から、親に余裕が生まれ、放っておいたり、待つことができたりするなど明らかに育て方は違うはずです。また、下の子の方をより面倒を見たり、上の子より甘い対応をしたりします。それを上の子は見て育つのですから、上の子と下の子では育つ環境が違うのが普通です。そういう家庭環境が子どもの成長や性格、親への依存や自立に大きく影響していることは当然のことです。

「教員あるある」かもしれませんが、教員には、自分の子どもを教える難しさがあると思っています。私は原則として息子たちに学校の学習内容を教えたことはありません。例外として、スキーは「指導」しました。水泳は「教え」として失敗しました…。

水泳の指導は得意だと思っています。何人も泳ぎが苦手だという子を泳がせてきました。ところが、我が家の長男を泳がしてやるができなかったのです。長男が小学校低学年の夏でした。妻に、長男が泳げなくて困っているから「教え」てやってよ、と命令相談され、泳ぎの苦手だった長男を連れて楕形のプールに行きました。私の、ああしろ、こうしろいう「教え」に始めは従っていた長男ですが、なかなか上達しないので、やがて、ふてくされ始めました。親はそういう態度には敏感ですので怒りがわいてきます。

私 「何だよ、泳げなくてもいいのか!」

長男 「泳げなくてもいい!!」

私 「そんなヤツは勝手にしろ!!!」 とケンカしながら家に帰って…

妻 「何よ、教えた子は全員泳がせたって威張っていたくせに…」



親と子はその間に感情が挟まるので、冷静に「教える」ことができなかつたり、冷静に「教わる」ことができなかつたりする見本のようなできごとでした。その後、長男はスイミングスクールに入り、泳ぎは得意の子になりましたが…。小学校の先生に「指導」していただいたのこともありませんが…。

その年の冬、息子2人を連れてスキーに行きました。水泳での苦い体験を生かし、スキーは努めて冷静に、教員としての姿勢をもって子どもたちに「指導」をしました。その結果、

長男 「父さんは、水泳の教え方はうまくないけど、スキーの教え方はうまい」
とヤツなりのほめ言葉（私にとっては「グサッ」とつきささる言葉）がでてきました。

親も子どもに育てられているのです。いつ育てられるのでしょうか？ それは親の思い通りに子どもがならないときではないかと思います。「もう…。全く言うことを聞かなくて…」とは、よく聞く親の愚痴ですが、その言うことを聞かない子をどうしたらいいのか考えるときに親が育つ瞬間ではないかと思うのです。そのときに親のチャンスであり、子どものチャンスでもあるのではと思います。子どもが思った通りにいかなくて、おろおろする親であったり、強引に子どもをそうしようという親であったり…。そういう経験を通して、知らず知らずのうちに、親が育てられていくものではないかと思います。

私たち教職員は、大明小学校の子どもたちを愛しています。しかし、自分の子どもへの感情とは違いますので、冷静に見守ることが出来ます。だから「指導」ができるのだと思っています。一番難しいのが自分の子を「教える」ことかもしれません。子どもとのやり取りのなかで、思いがけない行動にカッとなってしまうたり、どうしていいかわからずについ怒鳴ってしまったり、やさしくしてあげたいのに反射的に思いがけない言動をしてしまったり…など私の経験ですが、反省をくり返しながらか、親というのは子どもに育てられていくものなのです。



おれにそっくり

—PTAさんの歌—

相田みつを

運動会ではいつもビリ

子どものころのおれにそっくり

鉄棒やれば逆あがりもダメ

歌を歌えば全く音痴

おれが子どものころと同じだ

そろばんはじけば

のろくてまちがう

ハサミを使えば出しっぱなし

さがすときには大さわぎ

おやじのおれに

やることそっくり

宵ッぱりの朝ねぼっ

背ばかりヒョロヒョロ体力なし

ちょッと寒けりやすくしゃみ

理くつばかりで

からだがさっぱり

自分じゃ動かす

人ばかり使う

テレビ見るのも寝ころんで

わるいところが親に似た

わるいところが親ゆすり

わるいところが

おれそっくり

いやなところが

おれそっくり

